

ひろしま神楽団メキシコ公演 行程表

日次	月日(曜)	現地時刻	行程	宿泊先
1日目	10月20日(日) メキシコに向けて出発	6:30 7:00 9:00 10:20 12:30 16:30	道の駅 舞ロードIC千代田集合 広島空港へ(貸切バス) 広島空港にて出発式 広島～羽田(NH676) 成田空港へ(貸切バス) 成田～メキシコシティ(NH180) (日付変更線通過)	グアナファト
		14:15 15:30 21:00 23:00	メキシコシティ空港着 グアナファトへ(専用車) ホテル着 仕込み(スタッフのみ)	
2日目	10月21日(月) 神楽公演本番 (アロンディガ広場)	10:00 12:00 20:00	会場入り リハーサル 本番「土蜘蛛」「八岐大蛇」	グアナファト
3日目	10月22日(火) レオン市へ移動 神楽公演本番 (ビセンテナリオ劇場)	11:00 13:00 14:00 16:00 20:00	ホテル着 仕込み(スタッフのみ) 会場入り リハーサル 本番「土蜘蛛」「八岐大蛇」	レオン
4日目	10月23日(水) メキシコシティへ移動	8:00 15:00 20:00	メキシコシティへ(専用車) メキシコシティ到着(貸切バス) (荷物の載せ替え) メキシコシティ空港着	
5日目	10月24日(木) 広島へ向け出発	1:00	メキシコシティ～成田(NH179) (日付変更線通過)	機内
6日目	10月25日(金) 帰広	6:30 8:00 10:45 12:10 13:00 14:00	成田空港着 羽田空港へ(貸切バス) 羽田～広島(NH677) 広島空港着(解散式) 北広島町へ(貸切バス) 交流センター紫の里で荷物整理～解散	

10月20日(日) メキシコに向けて出発



出発(道の駅 舞ロードIC千代田)



広島空港にて出発式(夏目課長挨拶)



出発式(林理事長挨拶)



荷積み(メキシコシティ空港)

23時から舞台仕込み(スタッフのみ)



音響担当者と打ち合わせ



照明担当者と打ち合わせ



舞台設営



25時30分終了

10月21日(月)
セルバンティーノ国際芸術祭
アロンディガ広場特設会場(入場者数:5,000人)



公式YouTube



荷物チェック



リハーサル

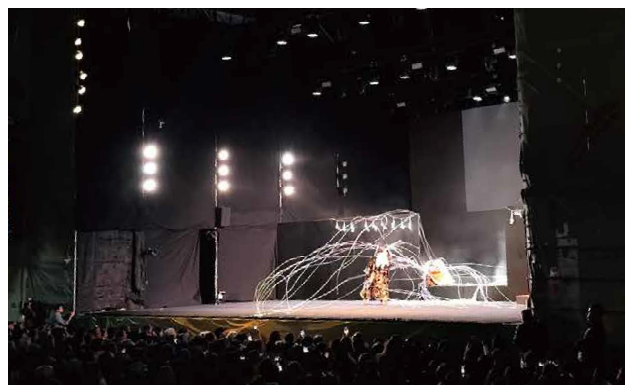


広島県議会中本隆志議長から激励

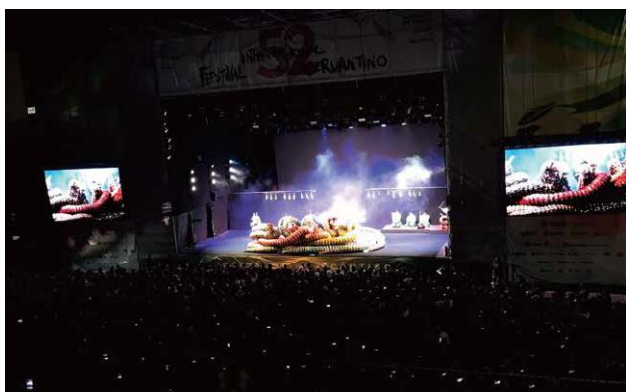


湯崎英彦広島県知事から激励

土蜘蛛



八岐大蛇



スタンディングオベーション

グアナファト州知事パートナーへ記念品(神楽面)を贈呈



お客様と記念撮影

10月22日(火)
セルバンティーノ国際芸術祭関連事業
ビセンテナリオ劇場(入場者数:1,100人)



国内最大級のオペラハウス



スタッフは先乗りで仕込み



幕ありの演出に変わるため打ち合わせ



本番前に円陣



ホール制作の神楽の顔出しパネル(開場時)



劇場長のハイメ・ルイス・ロベラ氏に記念品(神楽面)贈呈

土蜘蛛



八岐大蛇



スタンディングオベーション



終演後は現地の皆様と触れ合い



森団長挨拶

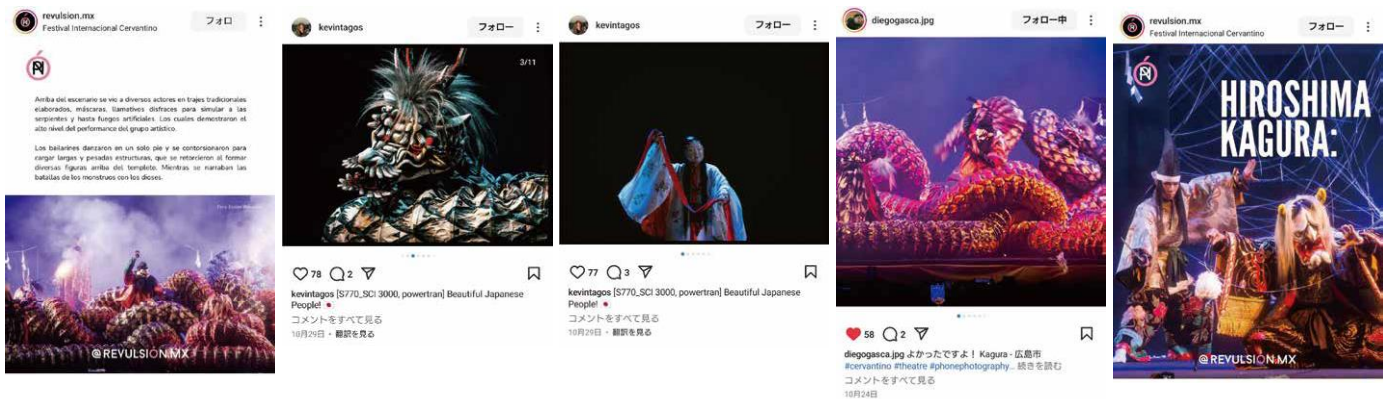


劇場企画部長のサルバドル・ガルシアさん挨拶

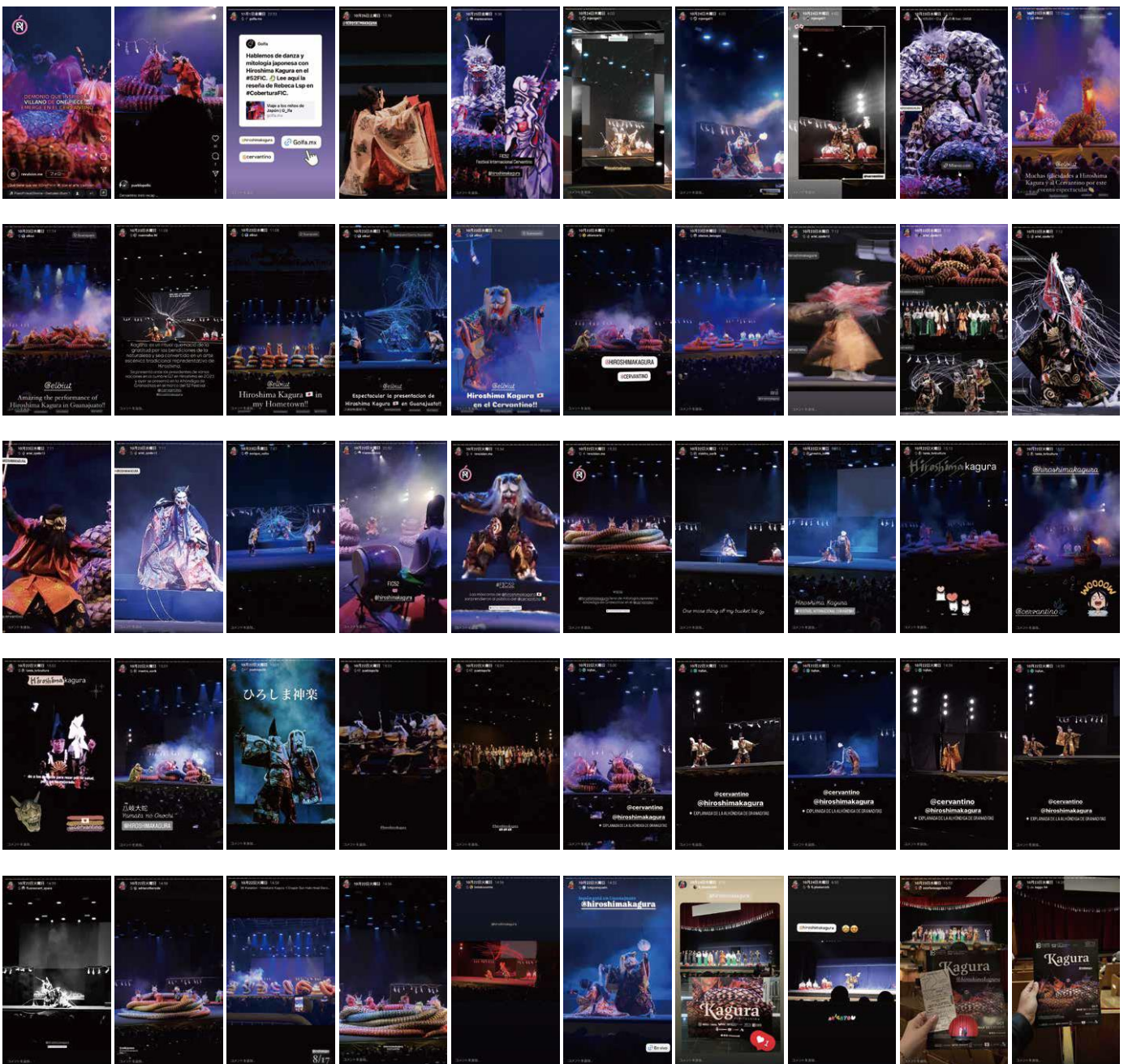


お客様と記念撮影

SNSへの投稿(抜粋)



このほか、ストーリーズにもたくさんの投稿がありました



10月23日(水)～25日(金)

帰国～帰広



劇場で荷物の積み込み



集合写真(ビセンテナリオ劇場)



コーディネーター横尾咲子さん挨拶



帰国(成田空港で荷物の積み込み)

解散式



林理事長挨拶



夏目課長挨拶



集合写真(広島空港)



一本締め(交流センター紫の里)

広島神楽メキシコツアー2024を終えて



グアナファト州と広島県の友好10周年を祝うこの企画に、2015年に続きコーディネーターとして関わったことを、とても光榮に思います。

神楽に表象される日本人の精神性と宇宙観を継承しながらも、豪華絢爛な衣装や演出を取り入れた、スペクタクル性の高い「広島神楽」は、いわば「スーパー神楽」。

これまで古今東西様々な舞台芸術を観てきましたが、5,000人の観衆と演者達があのように魅き合い、濃密な集中度をもって共に呼吸する舞台は初めてでした！お神楽がロックコンサートの如く盛り上がるなんて、想像もできませんでした、それはもう大変な盛況でした。

面や衣装の早変わり、瞬きを忘れるような流麗な舞、迫力満点のオロチ達、力強い太鼓と妙なる笛の音、観客を加速度的に惹き込んでいく演出…。その全てにすっかり魅了された5,000人のスタンディング・オーベーションは圧巻！感無量の一言でした。

広島神楽の驚くべき点は、演者さん達全員が「アマチュア」であること。それぞれ学業や仕事がある中、週2-3回集まって稽古に励み、週末に奉納公演。いわば大人の本気部活！その情熱と純粋さが芸能として昇華されるからこそ、人々の心をぐっと掴むのでしょう。団員の平均年齢は28歳！本当に気持ちの良い青年たちで、誇張でなく、「日本の希望！」と嬉しくなりました。

字幕やプログラムの翻訳、神楽団とフェスティバル間の連絡調整、花火の現地調達からお弁当の手配まで、ここ数か月間、密に関わってただけに、ツアーの成功を心より喜び、安堵しております。一つの芸術表現が、国境や言葉を越えて人々の心を動かし、「違いを喜び合う」ことにつながる。横行するジェノサイドとは対極にある、文化交流の醍醐味です。

これからますます、「スーパー神楽」が世界に羽ばたきますように、応援しております！

2024年11月

NPO法人 手をつなぐメキシコと日本

理事長 横尾咲子

本事業を終えて



ラテンアメリカ最大規模の国際芸術祭「セルバンティーノ国際芸術祭」。神楽を舞い終えた演者に惜しみなく贈られた、大観衆のスタンディングオベーション。私が団長として参加させていただいた、平成27年（広島県とメキシコ・グアナファト州友好提携1周年記念事業）の時のことです。今でも思わず涙が溢れ出したあの感動と達成感を忘れたことはありません。その思いをいつかあの場所でもっと多くの「神楽人（団員・裏方）」に感じてもらいたいと願っていました。

そんな思いを抱きながら、理事長として迎えた今年（令和6年）、広島県とグアナファト州の友好提携10周年記念事業で神楽公演することが決まり、私は裏方に徹して見送ることを決意しました。

メキシコへと出発した団員やスタッフからは、続々と現地での状況や写真が届き、大成功であったとの報告があったときには涙が溢れ出し、思わず「ありがとう！メキシコ」と声が出ました。

メキシコ公演のために広島県内から集まった9団体14人は、6月から10月にかけて仕事や学校、住んでいる地域も違う中、週一度の練習を重ねました。もちろん、陰で自主練習を重ねていたことは言うまでもありません。お互い初めて出会う人もいる中、成功を願って知恵を出し合い、努力した結果が本番で見事に花開いたのです。

米づくり日本の文化は数千年の歴史を経て、郷土芸能＝神楽を生み育てました。今や「ひろしま神楽」は舞台芸術としても高い評価を受けるようになっています。

今回のメキシコでの神楽公演は、平和で心豊かな日本を象徴する民俗芸能として、「もっと世界へ羽ばたけ」と後押しされているような感動をいただきました。

最後になりましたが、今回の「広島県・グアナファト州友好提携10周年記念事業（神楽公演）」に対し、ご指導・ご支援いただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。

2024年11月

NPO法人 広島神楽芸術研究所

理事長 林秀樹

